



東北農政局  
阿武隈土地改良  
調査管理事務所

# 阿武隈だより

A b u k u m a D a y o r i

2020. 3 第46号



安積疏水 大谷1号水路橋（郡山市）

約800mに及び大谷1号水路橋は、猪苗代湖からの水を安積平野に潤しています

menu

□土地改良区理事長訪問<あぶくま川水系角田地区土地改良区>

□阿武調情報

- ・角田支所開設 国営施設応急対策事業「角田地区」の概要
- ・直轄災害復旧事業「母畑地区」の実施状況
- ・国営施設応急対策事業（耐震対策一体型）「名取川地区」の実施状況
- ・国営施設応急対策事業（原因究明等調査）「母畑地区」「雄国山麓地区」「隈戸川地区」の概要
- ・国営造成農業用ダム安全性評価の実施状況
- ・管内の業務継続計画（BCP）の取組状況
- ・土地改良施設突発事故復旧事業の仕組みと管内実施状況

□地域情報

- ・国営かんがい排水事業「隈戸川地区」の事後評価結果
- ・羽鳥ダム管理事業の情報発信活動

農林水産省

# 土地改良区理事長訪問

あぶくま川水系角田地区土地改良区

理事長 かめ 亀 や 谷 ひさ 久 お 雄



## ◇プロフィール◇

- 昭和22年9月13日生まれ
  - 平成7年11月 角田隈東土地改良区 監事
  - 平成11年11月 角田隈東土地改良区 総括監事
  - 平成19年11月 角田隈東土地改良区 理事長
  - 平成23年8月 宮城県土地改良事業団体連合会 理事
  - 平成26年4月 あぶくま水系角田地区土地改良区 理事
  - 平成26年6月 あぶくま水系角田地区土地改良区 理事長
  - 平成28年6月 宮城県土地改良事業団体連合会 副会長
- 〈座右の銘〉「鋭意専心」

日頃より、あぶくま川水系角田地区土地改良区の事業運営に多大なるご支援を賜り深く感謝申し上げます。

当土地改良区は、平成26年4月に旧角田土地改良区と旧角田隈東土地改良区が統合合併し、阿武隈川を挟み宮城県南部の角田市並びに丸森町の受益地5,100ha、組合員5,200名を持つ地区となります。

まず初めに、先の台風19号による大雨により被災された農業関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

台風19号における令和元年10月11日の午後10時から13日の午前3時までの30時間の総雨量は、丸森町筆甫で約600ミリ、角田市で約400ミリ、1時間当たりの最大降雨量は12日午後10時に54ミリを記録しました。昭和61年の8.5豪雨の時の総雨量は角田市で約300ミリ、最大時間雨量は36ミリであり、今回はそれをはるかに上回る降雨量となりました。

また、阿武隈川の水位は、角田市枝野の笠松観測所で13日午前5時に17.48メートルに達し、氾濫危険水位の17メートルを超え、江尻排水機場付近でも堤防まであとわずかとなるほどの膨大な雨水が押し寄せました。当土地改良区において12日より江尻排水機場・堀切排水機場・中谷地排水機場等の各施設で職員と運転手が懸命の排水を行いました。大量の降雨により内水が増えたのに加え、丸森町雉尾川や角田市小田川など阿武隈川にそそぐ支流の河川が増水したため、新聞等報道のとおり、支流での越流や堤防決壊により氾濫し、市街地や農地、道路等の浸水被害が広範囲にわたりました。

農家と農業用施設等への被害も甚大で、春から手を掛けた待ち望んだ農作物や農機具、農業施設の冠水や、農地・水路などに流れ込んだガレキや稲わら等の処分も含め、かつて経験したことのない大水害となってしまいました。当土地改良区では、全国からのご支援に深く感謝するとともに、関係市町と共に力を合わせ予算確保の為の要請活動と土地改良施設の災害復旧に取り組み、一日でも早く農家の方々が営農再開できる様に鋭意取り組んでいる状況にあります。

そのような中、今回の災害は土地改良区の排水施設が、管内の優良農地のみならず農業基盤全般を冠水被害から守り、

農業経営の安定に資するとともに、中心市街地の浸水被害を防ぐ地域排水効果も発揮しており、市民の生命と財産を守る役割を担う大変重要な施設であることを、農業者だけでなく広く市民に再認識される契機となりました。

また、角田市の基幹的な農業水利施設である江尻排水機場について、国営角田土地改良事業（昭和59年度～平成7年度）により造成されましたが、電気設備の故障により主ポンプが緊急停止する不測の事態が発生し、浸水被害が生じているとともに、コンクリート構造物のひび割れや摩耗、除塵機設備の故障等による施設の性能低下が生じ、維持管理に多大な費用と労力を要しており、台風19号の際にも排水作業に支障をきたす状況となりましたが、令和元年度より新たに国営角田土地改良事業（国営施設応急対策）が総事業費59億円で事業着手することとなり、昨年8月に事務所2階に東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所角田支所が開設され、令和元年度から令和8年までの工期で、江尻排水機場の老朽化対策及び耐震化対策の大改修が実施されます。本事業では、施設機能の保全と、耐震化のための整備を一体的に行うことにより、排水機能の維持、維持管理の費用と労力の軽減及び施設の長寿命化を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資する効果が期待されております。

今後も地球温暖化等により豪雨被害が予想されることから、一日でも早く国営角田土地改良事業の完成を願い、更には今後台風19号の様な大きな水害が起こることの無い様、角田市及び丸森町の排水計画の抜本的な見直しについても国や県への要望活動を実施いたします。

今後とも、東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所様を始め、各関係機関のご指導、ご支援を頂きながら、災害復旧事業並びに国営角田土地改良事業の一日でも早い完成と、災害に強い土地改良区づくりに邁進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、皆様方のご健勝と今後のご活躍をお祈りいたします。

# 阿武調情報

## ○角田支所開設 国営施設応急対策事業「角田地区」の概要

令和元年8月、「東北農政局 阿武隈土地改良調査管理事務所 角田支所」を宮城県角田市に開設し、国営施設応急対策事業「角田地区」が事業着工しました。11月28日には、あぶくま川水系角田地区土地改良区において、角田支所の看板掲式を執り行いました。着実な事業推進と地域農業の持続的な発展に向けて、職員一丸となって取り組んで参りますので、今後とも皆様のご指導、ご支援の程よろしくをお願いいたします。



【支所前での看板掲式の様子】

## 事業の概要

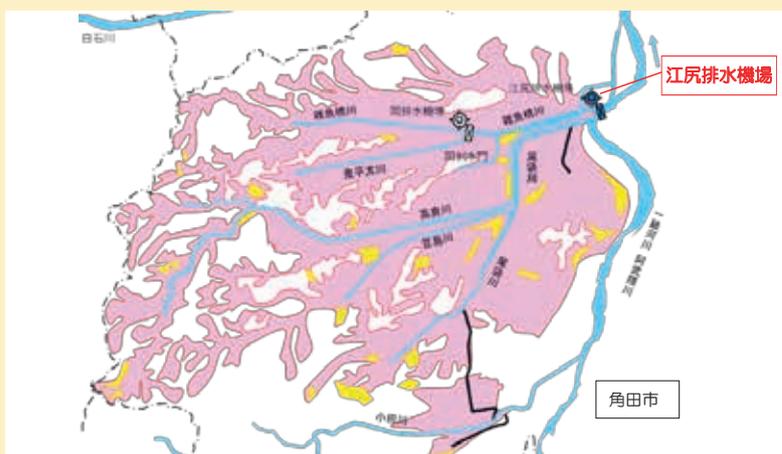
角田地区は、宮城県南部に位置する角田市の2,737haの農業地帯で、地区内では水稻を中心に野菜、果実等を組み合わせた農業経営が展開されており、近年はきゅうり、ねぎ等の高収益作物の栽培が盛んです。

本地区の基幹的な農業水利施設は、国営角田土地改良事業（昭和59年度～平成7年度）により造成されましたが、江尻排水機場においては、電気設備の故障により主ポンプが緊急停止する不測の事態が発生し、湛水被害が生じるとともに、コンクリート構造物のひび割れや摩耗、除塵機設備の故障等による施設の性能低下が生じています。更に、大規模地震が発生した場合、施設が破損し、地域に甚大な被害を及ぼす恐れがあります。このため、本事業では、施設機能の保全と耐震化のための整備を一体的に行うことにより、施設の維持管理の費用と労力の軽減及び施設の長寿命化を図、農業生産性の維持及び農業経営の安定を目指します。



【角田地区事業位置図】

## 概要図



【江尻排水機場全景】



【ポンプ設備】



【除塵設備】

## 地区概要

関係市町村	宮城県角田市（1市）
受益面積	2,737ha（田2,194ha 畑543ha）
主要工事計画	江尻排水機場（改修及び耐震化対策）1箇所
施設諸元	ポンプ設備 口径2,600mm 4台 総排水量62m <sup>3</sup> /s 土木構造物 RC構造 1式 建屋 SRC構造 地下1階 地上2階 除塵設備 1式 水門設備 4門
予定工期	令和元年度～令和8年度
事業費	59億円（H29年度単価）

# 阿武調情報

## ○直轄災害復旧事業「母畑地区」の実施状況（令和元年台風第19号の暴風雨による災害）

### 1. 被災状況

令和元年10月13日未明、福島県内を通過した台風19号の暴風雨により、石川町母畑地区内を流れる一級河川阿武隈川水系社川が増水し、国営総合農地開発事業「母畑地区」で造成した南幹線水路社川水管橋（φ1,000mm、L=60m）が約190m下流に流されるという大きな被害が発生しました。

被災時における社川の水位は、最寄りの水位観測所地点において、堤防4.0mを超える最大洪水水位4.55mが記録されるという大洪水でした。



【被災直後の状況（上空から撮影）】

### 2. 直轄災害復旧事業の決定

社川水管橋の流出は、約450haの農地に影響を及ぼすものです。このため、被災直後の10月15日に水管橋製造業者の協力のもと水管橋等の現地調査を実施し、調査の結果、目立った損傷が確認されなかったことから、直ちに再利用による復旧計画を策定し、11月1日に直轄災害復旧事業の実施を決定、12月4日から災害復旧工事に着手しました。

### 3. 災害復旧工事の内容及び実施状況

本工事は、流下した既設管を元の水管橋位置に再架設し復旧するものですが、50m以上ある水管橋に変形・損傷を与えないよう慎重かつ精度の高い施工が求められます。このため、約700mの仮設道路を造成し、国内でも台数が限られる大型クレーン550t級と多軸台車を導入し、吊上げ・移動・再架設を行います。仮設道路敷は約2週間で借地の協力をいただき、令和元年12月から工事に入り、令和2年4月末までに一連の施工を了し、令和2年度作付けに間に合うよう鋭意施工中です。



【①大型クレーン550 t 級による水管橋吊上げ状況】



【②多軸台車による水管橋移動状況】



【③水管橋の再架設状況（令和2年3月）】

# 阿武調情報

## ○国営施設応急対策事業（耐震対策一体型）「名取川地区」の実施状況

### ○事業目的

本地区は、宮城県のほぼ中央に位置し、仙台市、名取市及び岩沼市にまたがる2,653haの水田地帯であり、水稻を中心に、水田の畑利用による大豆、六条大麦、はくさい等を組み合わせた農業経営を展開しています。

本地区の基幹的な農業水利施設は、国営名取川土地改良事業（昭和42年度～昭和60年度）により造成されましたが、名取川頭首工においては、電気設備の不具合やゲート開閉装置の故障によるゲート操作が不能となる不測の事態が発生するとともに、コンクリート構造物のひび割れや摩耗等による施設の性能低下が生じています。

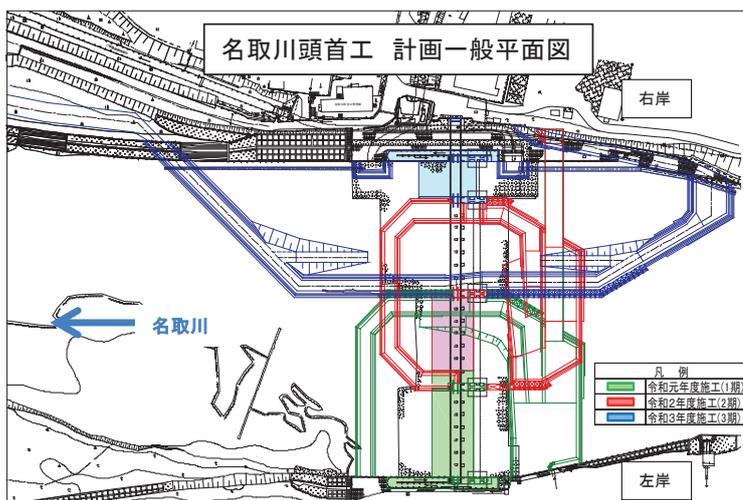
このため、名取川頭首工の機能を保全するための整備と耐震化のための整備を一体的に行い、農業用水の安定供給及び施設の維持管理の費用と労力の軽減並びに大規模地震の発生に伴う被害の防止又は軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資することとしています。

- 関係市町村：宮城県仙台市、名取市、岩沼市
- 受益面積：水田 2,653ha
- 主要工事：名取川頭首工（改修及び耐震化対策） 1箇所
- 予定工期：平成28年度～令和3年度（6年間）
- 事業費：21億円（H26年度単価）

### 【工事計画】

名取川頭首工の改修工事は、平成29年度～平成30年度に河川外施設（予備ゲート格納庫、管理棟）及び河川内の仮締切を設置せずに施工が可能な施設（堰柱耐震補強、右岸取水工ゲート、右岸非常用ゲート等）の整備を行いました。

令和元年度～令和3年度は河川内仮締切を設置し、3期に分けて頭首工のコンクリート構造物、ゲート等の改修工事を実施する計画としています。



### 令和元年度の工事实施状況



# 阿武調情報

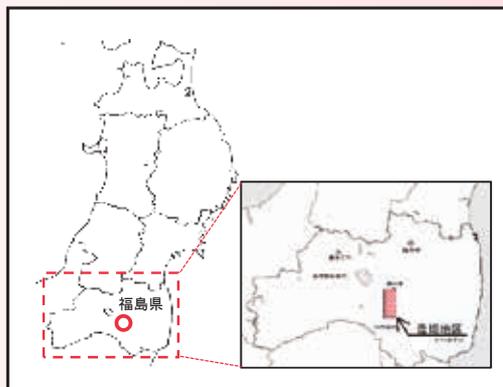
## ○国営施設応急対策事業（原因究明等調査）「母畑地区」の概要

母畑地区は、福島県中通りの東部、阿武隈川右岸に位置する丘陵地帯であり、郡山市、須賀川市、白河市、石川町、玉川村、中島村の3市1町2村にまたがる農業地域です。

本地区の基幹的な農業水利施設は、国営総合農地開発事業「母畑地区」（昭和42年度～平成9年度）により造成されました。

このうち、幹線用水路は漏水等の不測の事態が発生しており、農地の陥没被害が発生しています。

このため、不測の事態の発生原因を究明し、対策事業を実施するための調査を進めています。



### 概要図



### 地区概要

関係市町村	福島県郡山市、須賀川市、白河市、石川郡石川町、石川郡玉川村、西白河郡中島村（3市1町2村）
受益面積	1,965ha（精査中）
事業構想	千五沢ダム取水設備（改修）1箇所 千五沢ダム水管理施設（改修）1式 導水トンネル（改修）1式 用水路（改修）1式

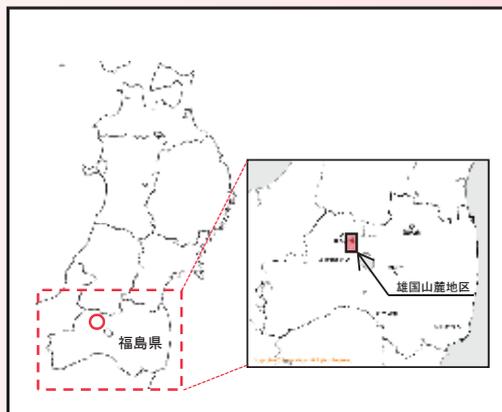
# 阿武調情報

## ○国営施設応急対策事業（原因究明等調査）「雄国山麓地区」の概要

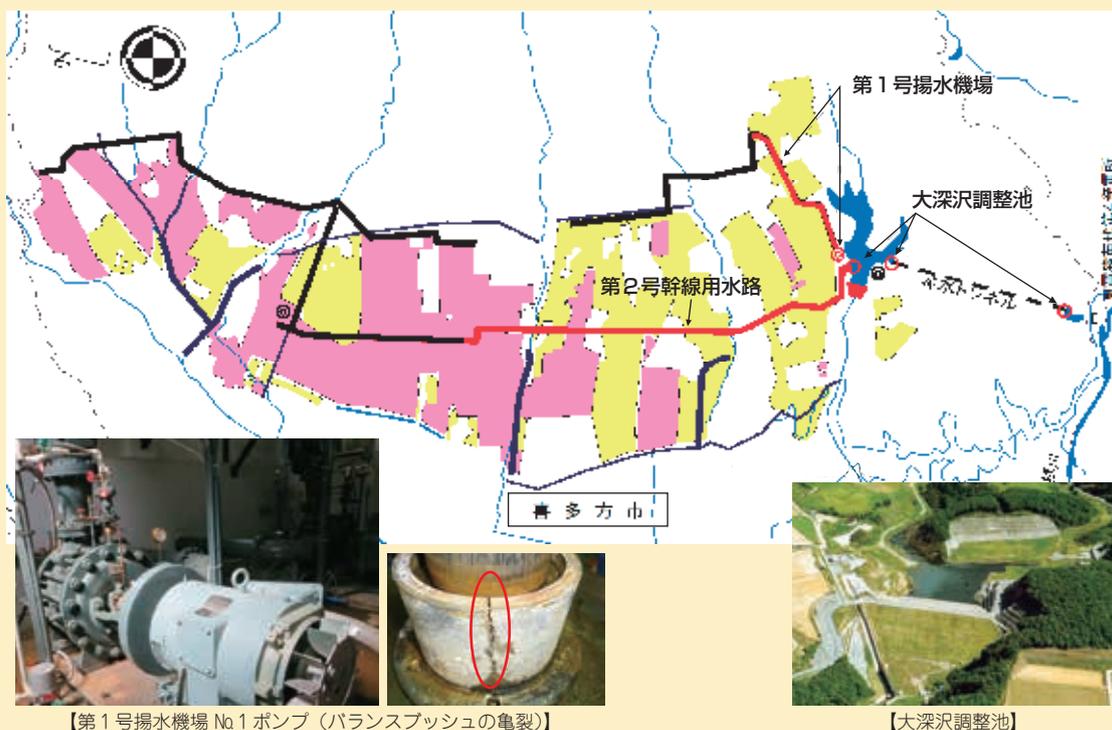
雄国山麓地区は、福島県会津盆地の北東部に位置する雄国山麓の台地に広がる農業地帯です。

本地区の基幹的な農業水利施設は、国営総合農地開発事業「雄国山麓地区」（昭和45年度～平成4年度）により造成されました。

このうち、第1号揚水機場は平成28及び29年に主ポンプが緊急停止する不測の事態が発生し、さらに第2号幹線用水路においては管水路の孔食等により維持管理に多大な費用と労力を要しています。このため、不測の事態の発生原因を究明し、対策事業を実施するため調査を進めています。



### 概要図



【第1号揚水機場 No.1 ポンプ（バランスブッシュの亀裂）】

【大深沢調整池】

### 地区概要

関係市町村	福島県喜多方市（1市）
受益面積	542ha（精査中）
事業構想	調整池（改修）1箇所 揚水機場（改修）1箇所 用水路（改修）1式 水管理施設（改修）1式

# 阿武調情報

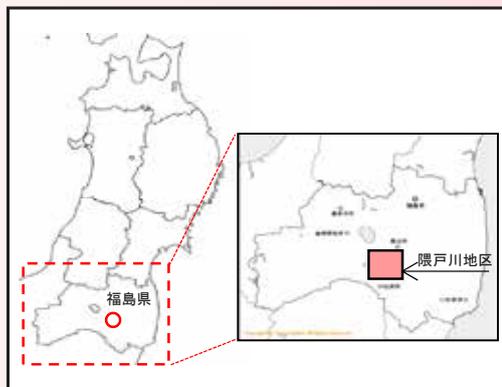
## ○国営施設応急対策事業（原因究明等調査）「隈戸川地区」の概要

隈戸川地区は、福島県の中通りの南部、阿武隈川の左岸に位置する水田農業地帯です。

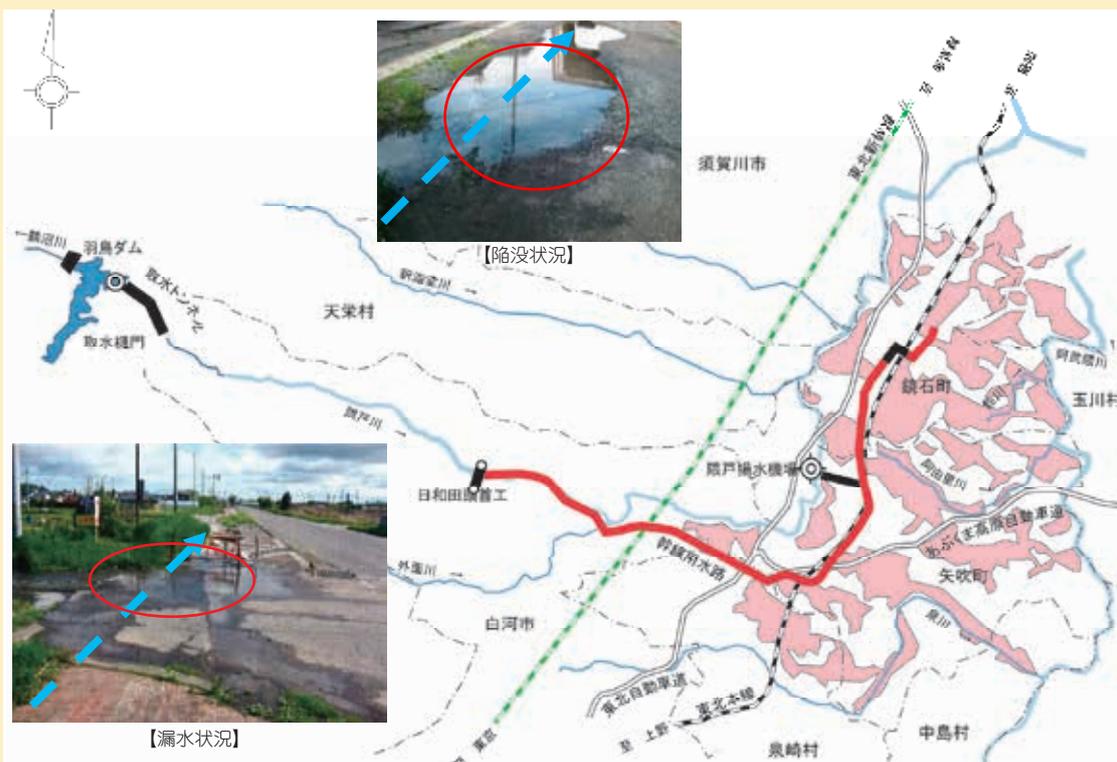
本地区の基幹的な農業水利施設は、国営大規模開墾事業「白河矢吹地区」（昭和16年度～昭和39年度）により造成され、その後、国営かんがい排水事業「隈戸川地区」（平成4年度～平成22年度）により更新しています。

既設利用とした下流部区間は、漏水等の不測の事態が発生しており、道路の陥没等の被害が発生しています。

また、用水路上流部では2カ年連続で漏水が発生したことから、応急対策を実施しており、不測の事態の発生原因を究明し、今後対策事業等を実施するための調査を進めています。



### 概要図



### 地区概要

関係市町村	福島県白河市、須賀川市、岩瀬郡鏡石町、西白河郡泉崎村、中島村、矢吹町（2市2町2村）
受益面積	2,777ha（精査中）
事業構想	用水路（改修）1式

# 阿武調情報

## ○国営造成農業用ダム安全性評価の実施状況

### 1. 農林水産省所管の国営造成農業用ダム等安全性評価の基本的考え方

ダム造成時の水理的・力学的安定性に関する設計・施工内容を確認した上で、設計等により期待されている性能が発揮されていること（健全性）を確認します。

その上で、「将来において想定される最大級の強さを持つ地震動（レベル2）」に対して、ダムが損傷を受けたとしても、貯水機能が維持されるか（耐震性能照査）を定量的に確認します。

将来にわたり安全性を十分確保したダム運用を図るため、評価結果を踏まえ、良好な施設管理への反映、性能低下・不足への対応等を実施するものです。

### 2. 阿武調管内の状況（令和2年3月時点）

管内で安全性評価の対象となる農業用ダムは10基で、令和元年度までに全てのダムの検討に着手しました。

そのうち7基の照査を終え、耐震性能を有していることを確認しました。残り3ダムについても安全性評価を実施中で、令和3年度までに全ダムで完了する計画です。

また、平成29年度から、農業用ダムに加えて重要度の高い頭首工についても安全性評価を実施しています。



羽鳥ダム

#### 【管内農業用ダムの検討状況と予定】

番号	ダム名	着工	完成	ダム形式	規模		安全性評価の検討時期
					堤高	総貯水量	
					(m)	(千m <sup>3</sup> )	
①	羽鳥ダム	1950(S25)	1956(S31)	アース	37.1	27,321	H25～H28 完了
②	西郷ダム	1948(S23)	1955(S30)	アース	32.5	3,299	H25～H27 完了
③	千五沢ダム	1969(S44)	1974(S49)	ロック	43.0	13,000	R1～R3 実施中
④	深田調整池	1973(S48)	1982(S57)	アース	54.8	8,690	H25～H29 完了
⑤	大柿ダム	1975(S50)	1988(S63)	ロック	84.5	19,500	H30～R2 実施中
⑥	日中ダム	1976(S51)	1991(H3)	ロック	101.0	24,600	H27～H29 完了
⑦	大深沢調整池	1980(S55)	1988(S63)	ロック	36.5	720	H28～H30 完了
⑧	金沢調整池	1997(H9)	2001(H13)	本堤：重力式	30.8	1,371	H30～R2 実施中
				副堤：アース	22.0		
⑨	新宮川ダム	1994(H6)	2003(H15)	重力式	69.0	10,320	H30～R1 完了
⑩	高柴調整池	1998(H10)	2000(H12)	アース	24.4	115	H29～R1 完了

#### 【管内頭首工の検討状況と予定】

番号	頭首工名	着工	完成	頭首工型式	規模		安全性評価の検討時期
					堤高	堰長	
					(m)	(m)	
①	熱海頭首工	1972(S47)	1974(S49)	フィックスドタイプ	6.4	27.0	H29 完了
②	多田野川第1頭首工	1976(S51)	1982(S57)	フローティングタイプ	3.2	22.8	H30 完了
③	南川頭首工	1979(S54)	1982(S57)	フローティングタイプ	3.1	10.0	R2 予定

# 阿武調情報

## ○管内の業務継続計画（BCP）の取組状況

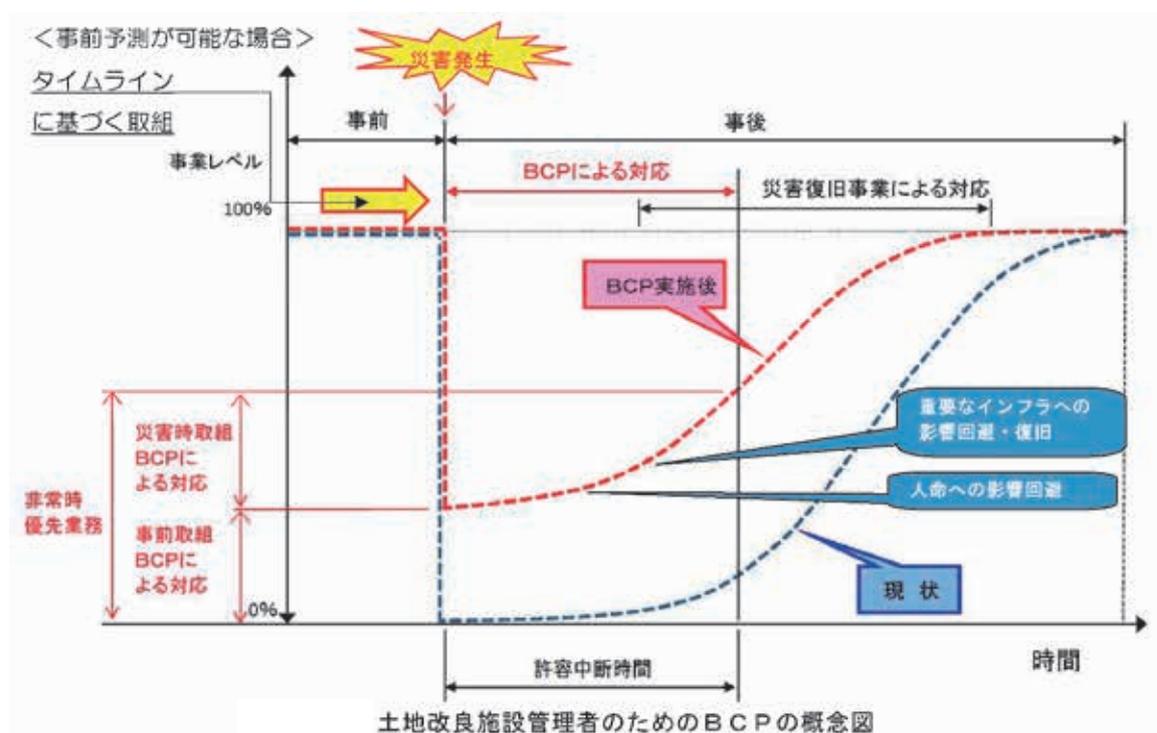
令和元年の台風19号による豪雨災害など、近年、自然災害が頻発していることに加え、地球温暖化等による災害発生リスクの高まりが懸念されているところだ。

仮にダムやため池等の農業用水利施設が決壊した場合、周辺住民の人命に影響を及ぼす可能性があるため、被災時の行動計画を作成しておくことはとても重要です。

被災後、施設管理者が業務を継続、あるいは早期に再開することにより、農業生産や周辺地域への影響を軽減できるよう、初動体制の強化を内容とする土地改良施設管理者の業務継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の作成が求められています。

BCPの作成によって、施設の管理業務の継続力向上のために必要な措置を定め、優先業務の立ち上げ時間の短縮やその業務レベルを向上させることが可能となります。

阿武調では、基幹水利施設の所有者である国の立場として、管理者の危機管理対応力強化のため、土地改良区におけるBCP作成の支援を行っています。



【BCPの实地演習風景】



【演習後の意見交換会】

# 阿武調情報

## ○土地改良施設突発事故復旧事業の仕組みと管内実施状況

### 【事業の仕組み】

平成30年の土地改良法改正を受けて、近年増加しているパイプラインの破裂といった土地改良施設の突発事故に迅速かつ機動的に対応するため、農業者の申請・負担を求めない復旧事業制度（災害事業と同様な仕組み）が同年度に創設されました。これにより、被害の拡大を防ぎ、早期の営農再開を支援するものです。

#### <主な内容>

#### 1. 土地改良施設突発事故復旧事業（直轄）

国が整備した土地改良施設で発生した突発事故についての対応。

- ・機能保全計画等の策定など、適正な保全管理がされている施設であること。
- ・末端支配面積 100ha以上 ・復旧事業費 2,000万円以上 等
- ・実施主体 国
- ・補助率 2/3等

#### 2. 土地改良施設突発事故復旧事業（補助）

土地改良施設で生じた突発事故についての対応。

- ・機能保全計画等の策定など、適正な保全管理がされている施設であること。
- ・末端支配面積 20ha以上 ・復旧事業費 200万円以上 等
- ・実施主体 都道府県、市町村、土地改良区、土地改良区連合
- ・補助率 1/2等

### 【阿武調管内の実施状況】

かんがい間近の平成31年4月4日に国営K地区幹線用水路（管水路：口径2600mm）において漏水事故が発生し、今年度の地域営農（受益面積約2,800ha）に大きな影響がでることが想定されました。

このため、早急に対応する必要があることから、「土地改良施設突発事故事業」を活用した土地改良区営による復旧を行うこととしました。

同事業は、阿武調管内において初めての対応となることもあり、当事務所では、試行錯誤しながら現地調査による事故原因の特定及び各関係機関との調整並びに事業計画書の作成等、土地改良区への支援を行い、4月中に復旧が完了し、早期通水を開始することにより、地域営農への影響を最小限にすることができました。

### 〔幹線用水路本管の漏水復旧対応〕

 【漏水箇所】	●現地調査  【管路内侵入水等を確認し箇所確定】	●事業計画書の作成  【計画書及びバック資料】	●緊急応急工事実施  【止水バンド設置状況 ゴム厚確認（φ2600）】
---	---	---	---

# 地域情報

## ○国営かんがい排水事業「隈戸川地区」の事後評価結果

事後評価は、工事の完了公告の翌年度から概ね5年を経過した地区を対象に実施しており、事業効果の発現状況等の評価を行い、評価結果は完了地区のフォローアップや事業評価手法の改良等に活用されます。

評価に当たっては、学識経験者等からなる技術検討会(第三者委員会)の意見を聴取し、評価結果はインターネット等で公表します。

令和元年度は、平成24年度に完了した「隈戸川地区」において、事後評価を実施しましたので、その結果をご紹介します。



### <事業の背景>

本地区のかんがい用水は、国営白河矢吹開拓建設事業(S16~39年度)で造成された羽鳥ダムその他、自流量が乏しい隈戸川、泉川、鈴川及び小規模なため池等に依存していましたが、水路の堰上げや揚水機による反復利用、番水等による水利用を余儀なくされ、営農形態の変化もあって恒常的な用水不足の状況でした。

また、国営事業で造成された用水施設等の老朽化により、維持管理に多大な労力と経費を要していました。

### <事業の目的>

国営隈戸川農業水利事業は、羽鳥ダムその他、頭首工、揚水機場及び用水路の改修による用水の安定供給と維持管理の軽減、併せて、関連事業の実施による営農の合理化を図り、生産性の向上と農業経営の安定化を図ることを目的として実施しました。

### <事業の概要及び事業により整備された主要施設>

地区名	隈戸川
関係市町村	福島県白河市(旧大信村)、須賀川市、鏡石町、天栄村、泉崎村、中島村、矢吹町(2市2町3村)
事業費	32,437百万円(決算額)
事業期間	平成4年度~平成24年度
受益面積	3,228ha(田)
受益者数	3,433人
主要工事	ダム 1箇所(取水設備、管理施設等) 頭首工 1箇所 陽水機 1箇所 用水路 17.8km



【羽鳥ダム(取水設備)】



【日和田頭首工】



【隈戸陽水機場】



【幹線用水路(施工中)】

### <具体的な事業の効果>

- 農業用水の安定供給
- 基幹水利施設の維持管理の軽減
- 産地収益力の向上
- 多面的機能の発揮、食育の推進等の波及効果
- 用水路のパイプライン化による生活環境の改善

### ~技術検討会の意見(抜粋・要約)~

- 国営事業の実施により基幹水利施設が更新され、農業用水の安定供給機能が回復し、水管理システムによる合理的な配分が可能となり、維持管理の軽減が図られた。
- 農業用水の供給によって、産地形成されているきゅうり、トマト等の多様な農産物の安定生産や品質の向上に寄与している。
- 基幹水利施設以外の整備が進んでいないことから、本地区全体の農業用水の安定供給や産地収益力の向上等に向けて、関連事業を計画的に推進していくことが望まれる。



詳細はこちら(東北農政局ホームページ)

<http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/zigohyouka/zigohyoukatop/zigohyouka.html>

## 地域情報

### ○羽鳥ダム管理事業の情報発信活動

羽鳥ダム管理所では、毎年、小学生をはじめ一般の方々に対する施設見学会や地域行事へのパネル展示等を通じ、羽鳥ダムの目的や役割、ダムの魅力を幅広く発信しています。今年度も多数の方々を訪れ、ダムを身近に感じ、多岐にわたる質問が飛び交いましたので、その様子をご紹介します。

#### ○施設見学会を通じダムの魅力を発信、ダムの管理状況を身近に体感

##### 【地元小学生が来訪】

令和元年10月3日(木)、11月6日(水)は、矢吹原土地改良区が主催する校外学習の一環で、地元の矢吹小学校と善郷小学校の4年生、約130人が見学を訪れました。事前の9月24日(火)、10月16日(水)には、矢吹原土地改良区が小学校に出向き、「羽鳥疏水の成り立ちと用水の働き・仕組み、それを造った人々の工夫や努力」について出前授業を行っています。

ダム見学当日は、堤体においてダムの概要・役割を説明し、施工中の洪水吐補修工事の様子を、また、管理所操作室においては、操作機器や監視モニタを身近に見てもらい、取水や放流のルールなど日常のダム管理の仕事を紹介しました。初めて入る操作室では、興味津々、目を輝かせながら、熱心にメモをとる姿が印象的でした。「①操作室の温度がほかの部屋より低いのはなぜ?」、「②湖が凍ったら水をどのように放流するのか?」、「③ダムで雨量のほかに風速を測っているのはなぜ?」など次から次へと質問が飛び交い、一つ一つ丁寧に説明しました。



【ダムの役割について耳を傾ける】



【操作室内で熱心にメモを】



【堤体から周辺施設や取水状況を見学】

##### 【県外からも一般の方々が来訪】

10月7日(月)は、新潟県からNPO法人大河津資料館友の会の皆さん15人が、河川等に関する研究・調査事業(県外河川探訪)の一環で訪れました。流域変更(日本海へ流れる鶴沼川をせき止め、阿武隈川を経由し、太平洋へ流れる隈戸川へ農業用水を供給)する羽鳥ダムの計画に対し、興味を持たれた方もおり、「④分水嶺はどこら辺か?」という質問をはじめ、「⑤関係する改良区の数?」、「⑥用水路の補修は誰がやるの?」、「⑦ダム湖に生息する魚類は?」など、質問が多岐にわたりました。

#### ○パネル展示を通じダムの役割や羽鳥湖の四季を紹介

##### 【天栄村湯本地区文化祭に出展】

11月2日(土)、3日(日)は、天栄村湯本地区文化祭が開催され、羽鳥ダム管理所のダム管理の内容や四季折々の写真をパネル展示させていただきました。2日間で約200人が来場され、春から秋にかけ農業用水を供給するダムの様子や、冬はワカサギ釣りで賑わう、羽鳥湖の一年を通じた様々な魅力を紹介し、羽鳥ダムを身近に感じ、理解を深めていただくことができました。



【羽鳥ダムのパネル展示】

#### ○令和元年台風19号における羽鳥ダムの貯留状況・洪水緩和に寄与

令和元年10月、各地に甚大な被害をもたらした台風19号では、羽鳥ダムにおいても累計雨量302mm、最大時間雨量39mm、最大流入量219m<sup>3</sup>/sを記録し、いずれも過去10力年で最大となりました。この時、羽鳥ダムには約7百万m<sup>3</sup>(東京ドーム約5.7杯分)以上の水が流れ込みましたが、ほぼ全量をダムに貯留し、下流河川の水位上昇を抑え、洪水緩和に寄与しました。

## 編集後記

- ◇紙面作成にあたり、あぶくま川水系角田地区土地改良区の亀谷理事長におかれましては、ご協力いただき大変ありがとうございました。
- ◇令和元年10月の台風19号では、管内各地で観測史上最大雨量を記録し、農地や農業用施設に大きな被害をもたらしましたが、復旧に向け全国の各方面の技術者等から支援を頂いた災害査定も1月には終わり、今後工事が本格化していくものと思われます。阿武隈においても直轄災害復旧事業で母畑地区の社川水管橋の復旧工事を実施しており、令和2年度の作付けに間に合うよう鋭意進めております。今後も皆さまのご協力をいただきながら農業農村の持続的な発展に尽くしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## 所在地・連絡先

### 阿武隈土地改良調査管理事務所



〒960-0241 福島県福島市笹谷字稲場38-7  
TEL 024-555-3780 FAX 024-555-3783

### 羽鳥ダム管理所



〒962-0623 福島県岩瀬郡天栄村大字羽鳥字水上5-1  
TEL 0248-84-2211 FAX 0248-84-2702

### 角田支所



〒981-1505 宮城県角田市角田字中島下458  
(あぶくま川水系角田地区土地改良区2F)  
TEL 0224-86-5150 FAX 0224-62-5088

### 名取支所



〒981-1266 宮城県名取市植松字錦田84-1  
(名取土地改良区2階)  
TEL 022-381-6733 FAX 022-381-6734

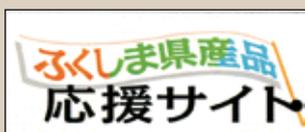


### 咲かそう！笑顔のむらづくり

私たちが住む里は、いつまでも美しくたくましく人々とともに息づいて欲しいとの願いをシンボルマークに託しました。さんさんと輝く太陽のイメージは、希望と優しさ、そして実り豊かな大地のカタチを表しています。太陽の中には笑顔を配し、美しく豊かな自然に生きる人々をシンボライズしています。

編集  
発行

阿武隈だより 第46号 令和2年3月 発行  
東北農政局 阿武隈土地改良調査管理事務所 URL : <http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/kokuei/abukuma/>



福島県産品 応援サイト

検索

# 食べて応援しよう!

被災地を応援

農林水産省

食べて応援しよう

検索



食材王国みやぎ

検索

このパンフレットは環境に優しい再生紙を使用しています。